

Citation: López-Arrieta J, Sanz FJFS. Nicotine for Alzheimer's disease. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2001, Issue 2. Art. No.: CD001749. DOI: 10.1002/14651858.CD001749.

CRG名: Cochrane Dementia and Cognitive Improvement Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 21 May 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 7, Update

背景: ニコチンは、アセチルコリン放出の際シナプス前作用をも有するコリン作動薬である。それはラットで脳の内側中隔核の病変から起こる空間記憶障害を改善させることが示されてきたし、高齢のサルにニコチンを投与すると、記憶と視覚刺激に対する注意力を改善する。複数の観察研究で喫煙がアルツハイマー病からの保護的効果を持つと示唆してきたが、最近の研究ではこれに異議を唱えられた。喫煙は脳卒中に対する危険因子であるし、おそらく脳血管性認知症に対してもそうであろう。ニコチンは有害作用を有することから、アルツハイマー病患者に対するニコチンの臨床的有効性および安全性を評価するシステムティック・レビューを行うことは重要である。

目的: アルツハイマー病患者に対するニコチン(投与経路や剤形を問わない)の有効性および安全性を評価する。

検索戦略: ALOIS、すなわちthe Cochrane Dementia and Cognitive Improvement Group(CDCIG)による Specialized Register、コクラン・ライブラリ、MEDLINE、EMBASE、PsycINFO、CINAHL、LILACS、その他の情報源を2010年3月25日に検索した。

2010年3月に行った最終検索で、検討に価する4件の新しい研究を抽出した。しかし、これらの研究のどれもが本レビューの選択基準を満たさなかった。

選択基準: アルツハイマー病患者を対象として、ニコチンパッチによる治療、ニコチンの静脈内投与、または他のなんらかの経路や剤形での投与が数日間行われ、それぞれをプラセボとを比較したすべての非交絡化二重盲検ランダム化試験。

データ収集と分析: 選択された1件の試験からは本レビューで選択基準を満たす結果が得られなかった。

主な結果: 選択された1件の研究から得た利用可能な結果はなかった。

レビューアの結論: 本レビューでは、ニコチンがアルツハイマー病治療において有効であるかどうかのエビデンスを提供することはできなかった。

(監訳 大神 英一)
翻訳公開日: 2011年3月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。